

# 平成30年度版 交通事故の実態

H29.04~H30.03



神奈川県自動車交通共済協同組合

## 平成 30 年度版「交通事故の実態」の発刊にあたって

当組合は、交通事故の防止を最重要課題として取り組んでいます。

平成 29 年度は組合員の交通事故の発生実態を踏まえ、次の通り交通事故防止重点項目を掲げ、組合員の理解と協力のもと、交通事故の防止に向けた取り組みを行いました。

- 追突事故の根絶
- 交差点事故の根絶
- 後退・構内事故の根絶

その結果、対人共済では 426 件（前年度比 21 件減）、搭傷共済では 9 件（同 1 件減）、対物共済では 1,489 件（同 156 件減）、車両共済では 122 件（同 4 件増）となり、過去 5 年間において、対人・対物共済は最も少ない件数となり、また、主力の対人共済の死傷者は 530 人（前年度比 69 人減）、対物共済は構内事故が 494 件（同 83 件減）となりました。

ここに、平成 30 年度版「交通事故の実態」として、平成 29 年度の交通事故の発生状況を統計資料として公表いたします。

組合員の皆様におかれましては、一件でも交通事故を減少させるため、事業所の交通事故防止活動にご活用いただければ幸いです。

データの分類は、各年度ごとに「全事故」や「共済種目別」に行っています。

- 「全事故」とは、各期間内に受け付けた事故件数
- 「共済種目別」とは、共済契約種目別に事故処理をした件数

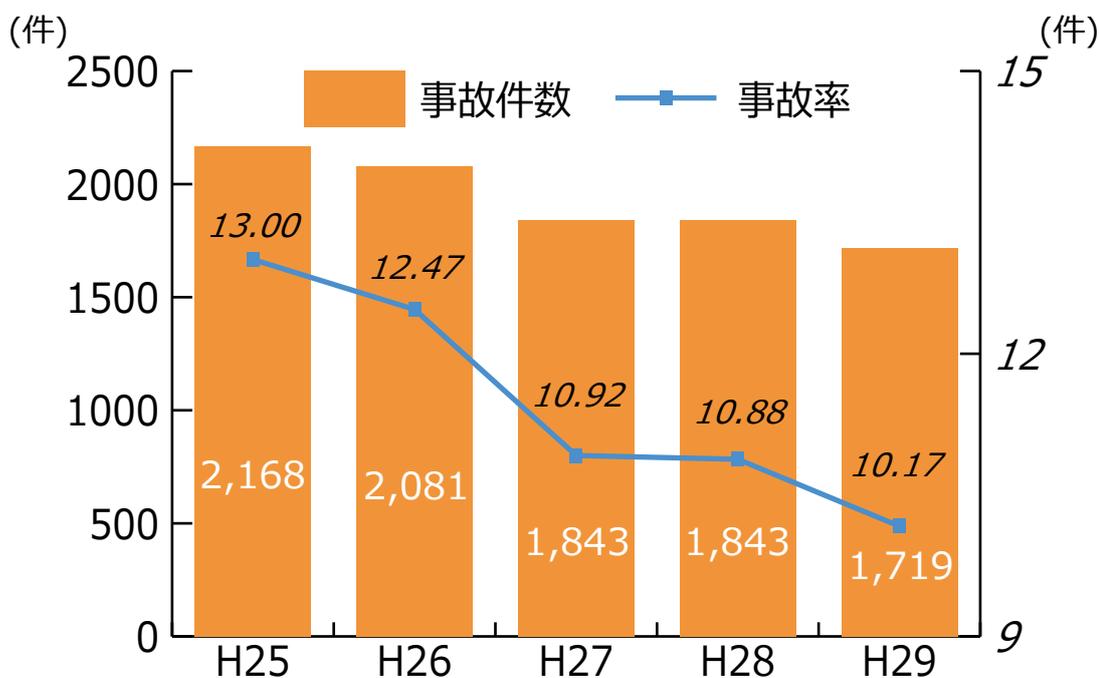
# 目次

1. 交通事故発生状況（全事故）……………1頁
  - (1) 事故発生件数と事故率（平成 25～29 年度）
  - (2) 月別事故発生件数（平成 29 年度）
  - (3) 類型別事故発生件数（平成 29 年度）
  - (4) 道路形状別事故発生件数（平成 29 年度）
  - (5) 発生時間帯別事故発生件数（平成 29 年度）
  - (6) 運転者年齢層別事故発生件数（平成 29 年度）
  - (7) 原因別事故発生件数（平成 29 年度）
2. 共済種目別事故発生状況……………5頁
  - (1) 共済種目別事故発生件数・事故率
  - (2) 対人共済被害者数（死亡・後遺障害・傷害）
  - (3) 対物共済類型別件数
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況（平成 29 年度）…6頁
  - (1) 追突事故の実態
    - ① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）
    - ② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額
    - ③ 追突事故防止のワンポイントアドバイス
  - (2) 交差点事故の実態
    - ① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）
    - ② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）
    - ③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額
    - ④ 交差点事故防止のワンポイントアドバイス
  - (3) 構内事故の実態（対物共済）
    - ① 構内事故の類型別事故状況
    - ② 構内事故の原因別事故状況
    - ③ 構内事故（対物共済）の支払共済金・備金総額
    - ④ 構内事故防止のワンポイントアドバイス
  - (4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）
    - ① 交通弱者との道路形状別事故状況
    - ② 交通弱者との原因別事故状況
    - ③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金・備金総額
    - ④ 交通弱者年齢層と事故発生場所
    - ⑤ 交通弱者被害者類型・態様別
    - ⑥ 交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス
4. 過去 5 年間における発生事故に係る支払共済金・備金総額…15 頁
  - (1) 共済種目別（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額
5. 過去 5 年間における高額賠償事案の事故発生概況…15 頁
  - (1) 対人共済
    - ① 高額賠償事案（1,000 万円以上）の事故発生状況
    - ② 道路形状別の事故発生状況
    - ③ 発生時間帯別の事故発生状況
    - ④ 原因別の事故発生状況
    - ⑤ 類型別の事故発生状況
  - (2) 対物共済
    - ① 高額賠償事案（200 万円以上）の事故発生状況
    - ② 道路形状別の事故発生状況
    - ③ 発生時間帯別の事故発生状況
    - ④ 原因別の事故発生状況
    - ⑤ 類型別の事故発生状況
6. 過去 5 年間における運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）…20 頁
  - (1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況
  - (2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況
  - (3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況
  - (4) 高齢運転者への事故防止ワンポイントアドバイス
7. 平成 29 年度交通事故防止強化月の事故発生状況…23 頁
  - (1) 月別事故発生状況・事故率
    - ① 月別事故発生件数・事故率（全事故）
    - ② 月別事故発生件数・事故率（対人共済）
    - ③ 月別事故発生件数・事故率（対物共済）
  - (2) 道路形状別事故発生件数（全事故）
  - (3) 運転者年齢層別事故発生件数（全事故）
  - (4) 類型別事故発生件数（全事故）
  - (5) 原因別事故発生件数（全事故）
8. コメンタリー運転で事故防止……………27 頁
  - (1) コメンタリー運転とは
  - (2) コメンタリー運転の方法
  - (3) コメンタリー運転の効果とポイント
9. 交協連傘下 15 組合の平成 29 年度事故発生状況…29 頁
  - (1) 事故発生状況（対人・対物事故）
  - (2) 原因別事故発生状況（対人事故）
  - (3) 類型別事故発生状況（対人事故）
  - (4) 運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）

# 1. 交通事故発生状況（全事故）

## （1）事故発生件数と事故率（平成25～29年度）

事故発生件数および事故率はここ5年間減少しています。



※発生件数は各年度の決算時の件数を示します。

※事故率は100両当りの1年間の事故発生割合(件数)を示します。

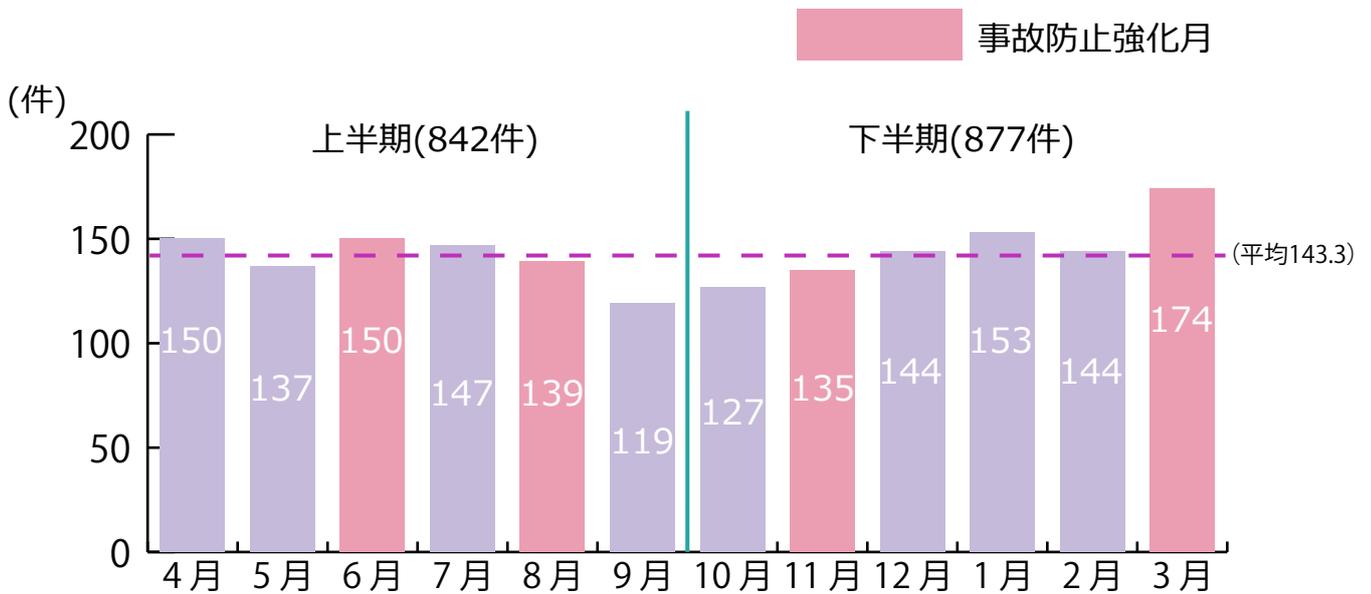
### 「共済種目別事故発生件数」

(件)

年度	H25	H26	H27	H28	H29
共済種目別					
対人	501	443	463	447	426
搭傷	15	12	8	10	9
対物	1,775	1,640	1,617	1,645	1,489
車両	107	107	117	118	122
合計	2,398	2,202	2,205	2,220	2,046
全事故件数	2,168	2,081	1,843	1,843	1,719

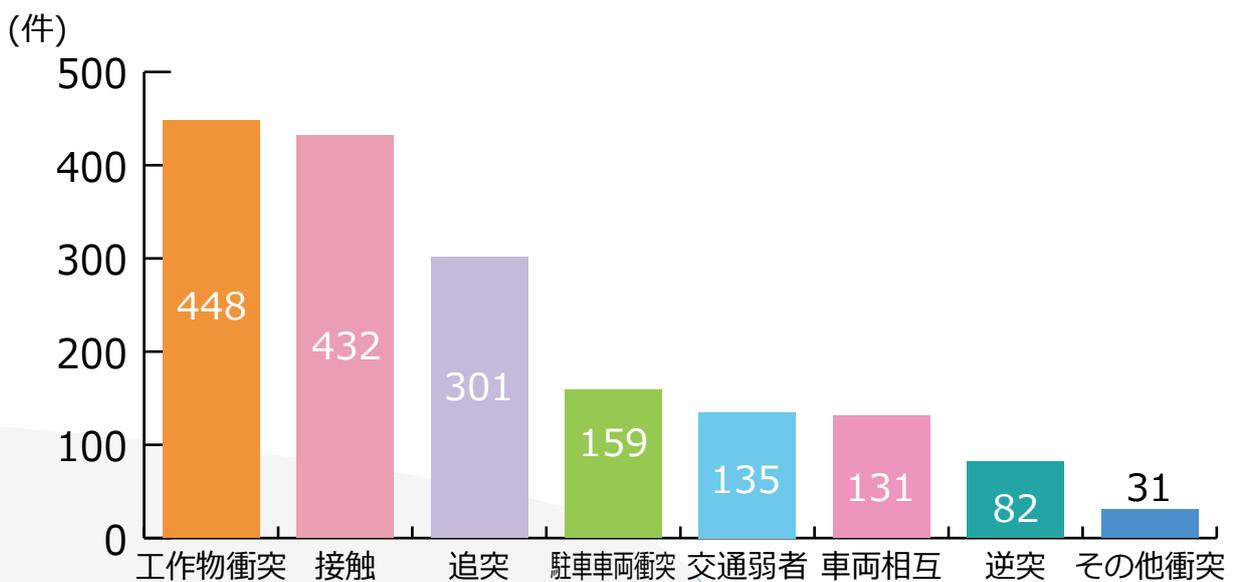
## (2) 月別事故発生件数（平成29年度）

月別では、3月が最も多く、次いで1月、4月、6月の順に多く発生しています。



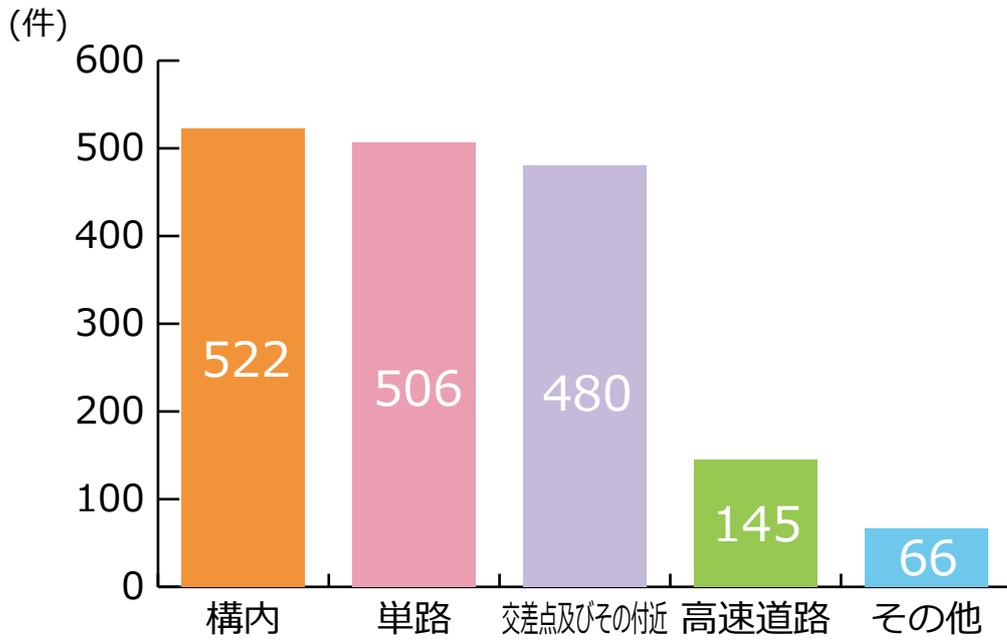
## (3) 類型別事故発生件数（平成29年度）

類型別では、工作物への衝突が最も多く、次いで接触事故、追突事故の順に多く発生しています。



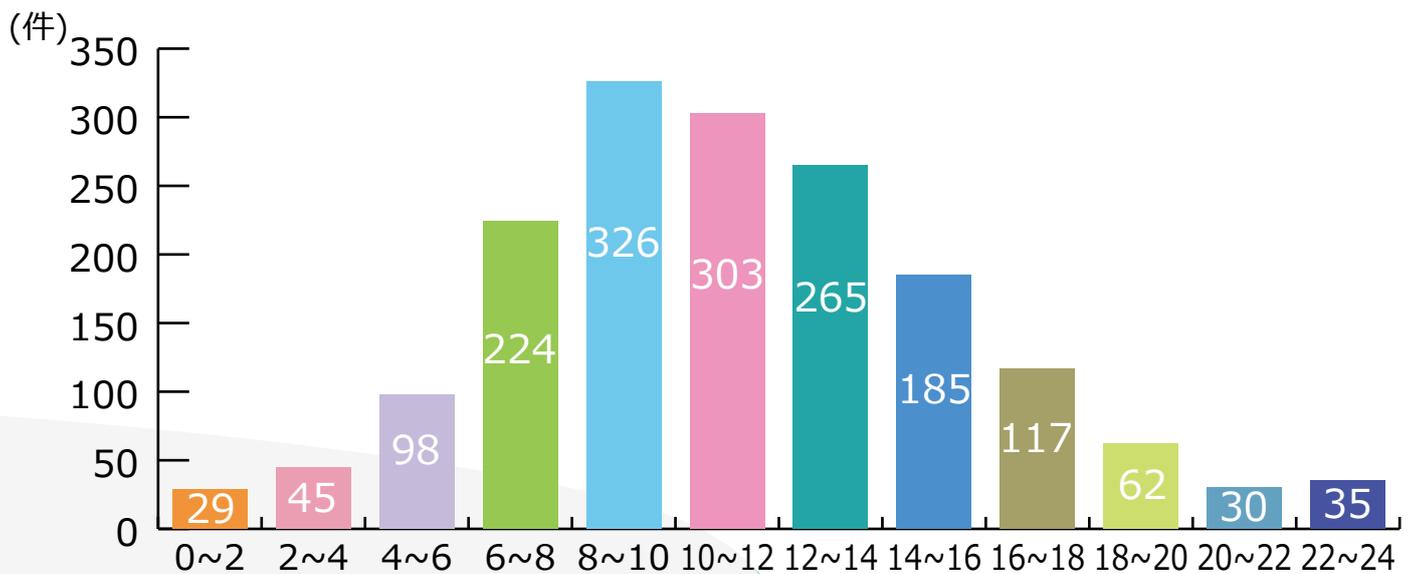
#### (4) 道路形状別事故発生件数（平成29年度）

道路形状別では、構内が最も多く、次いで単路と交差点及びその付近で多く発生しています。



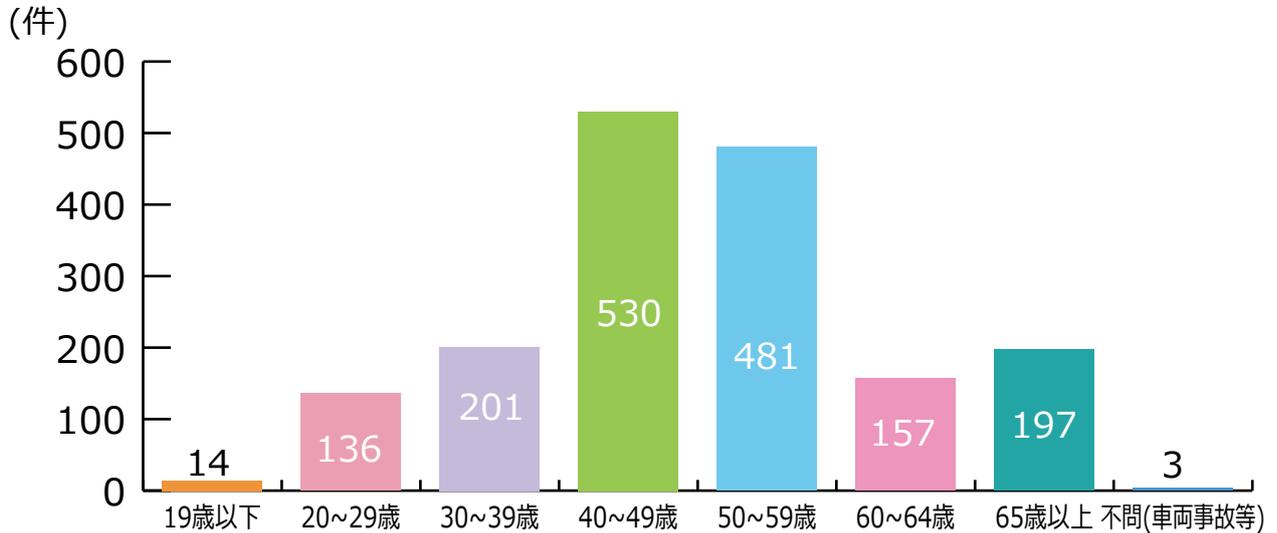
#### (5) 発生時間帯別事故発生件数（平成29年度）

発生時間帯別では、通勤ラッシュ時で交通量や歩行者が増える8時から12時までの時間帯に多く発生しています。



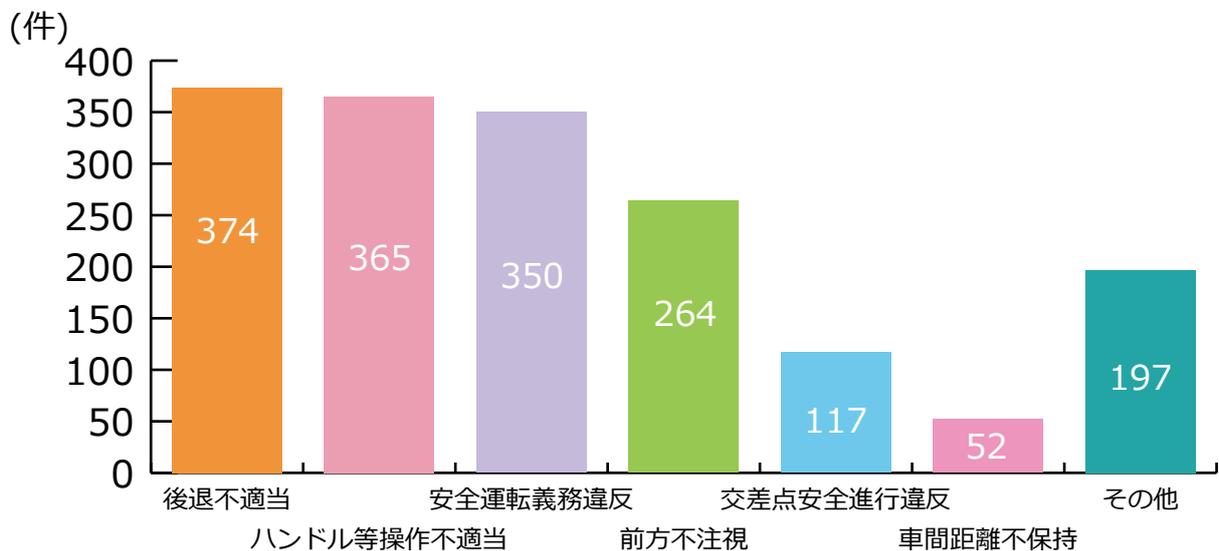
## (6) 運転者年齢層別事故発生件数（平成29年度）

運転者年齢別では、40歳代が最も多く、また65歳以上の運転者は、前年度比で14人増加の197人で、年々増加の傾向にあります。



## (7) 原因別事故発生件数（平成29年度）

原因別では、構内での後退不適當による発生が最も多く、次いでハンドル等操作不適當の順に多く発生しています。



### 道路交通法では

- ◇安全運転義務違反とは、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。
- ◇交差点安全進行義務違反とは、交差点を通過する際、交差点の通行車両及び横断歩行者に注意し、安全な速度と方法で進行しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。

## 2. 共済種目別事故発生状況

### (1) 共済種目別事故発生件数・事故率

共済種目別		年度	H25	H26	H27	H28	H29
対人	発生件数(件)		501	443	463	447	426
	死者数(人)		7	5	10	7	5
	傷者数(人)		671	580	618	592	525
	事故率(件)		3.00	2.65	2.74	2.64	2.52
搭傷	発生件数(件)		15	12	8	10	9
	事故率(件)		0.27	0.21	0.13	0.17	0.15
対物	発生件数(件)		1,775	1,640	1,617	1,645	1,489
	事故率(件)		13.63	12.51	12.06	12.29	11.22
車両	発生件数(件)		107	107	117	118	122
	事故率(件)		7.22	6.70	6.51	6.66	6.72

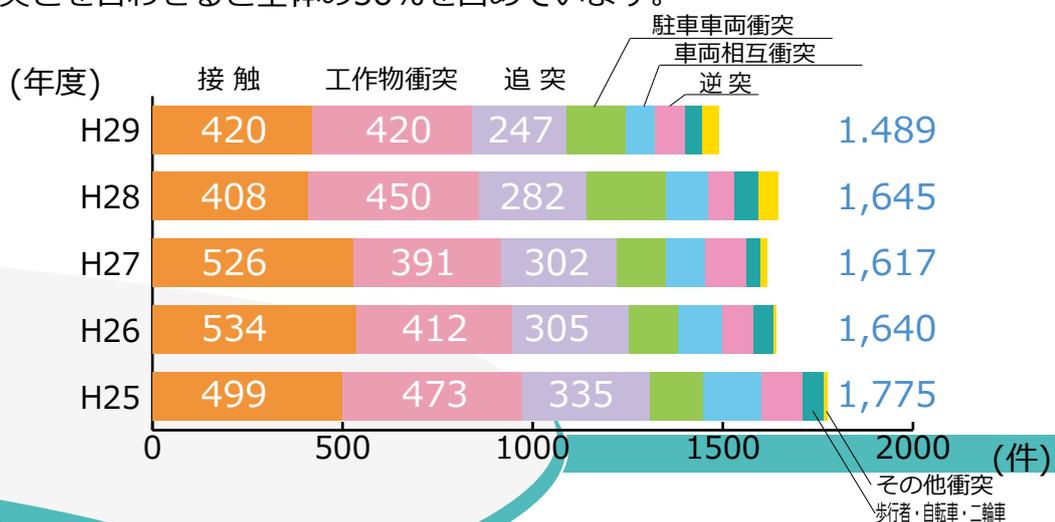
### (2) 対人共済被害者数(死亡・後遺障害・傷害)

対人事故は、前年度と比べ減少したものの、後遺障害者数は、前年度を上回りました。

区分	年度	H25	H26	H27	H28	H29
① 死亡(人)		7	5	10	7	5
② 後遺障害(人)		42	48	36	27	33
③ 傷害(人)		629	532	582	565	492
④ 合計(人)		678	585	628	599	530
⑤ ①+②(人)		49	53	46	34	38
⑥ ⑤の④に対する割合(%)		7.2	9.1	7.3	5.7	7.2

### (3) 対物共済類型別

対物事故は、1,489件発生し、過去5年間で最も少ない件数となったものの、接触事故と工作物衝突とを合わせると全体の56%を占めています。



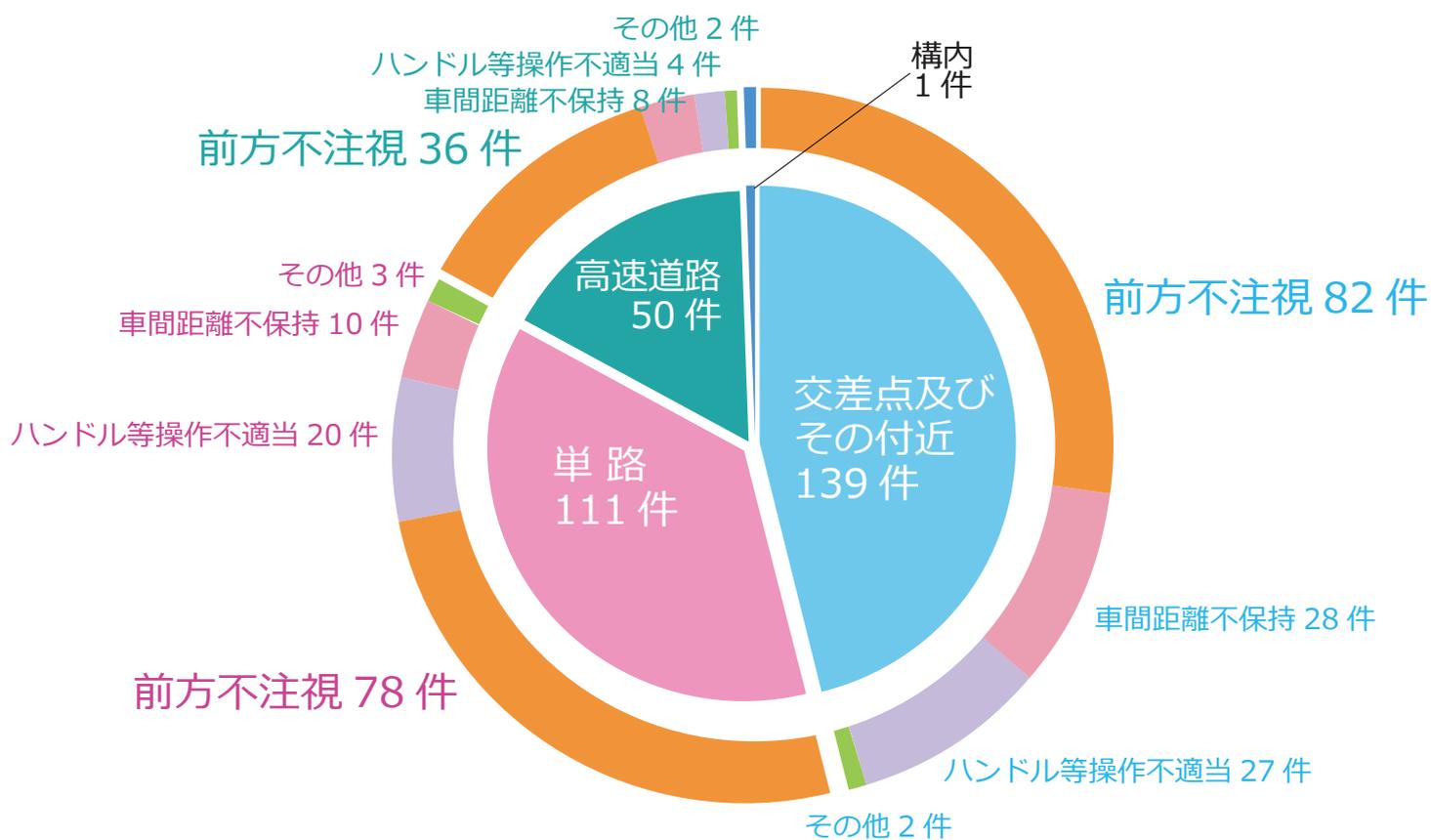
### 3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況（平成29年度）

#### (1) 追突事故の実態

##### ① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）

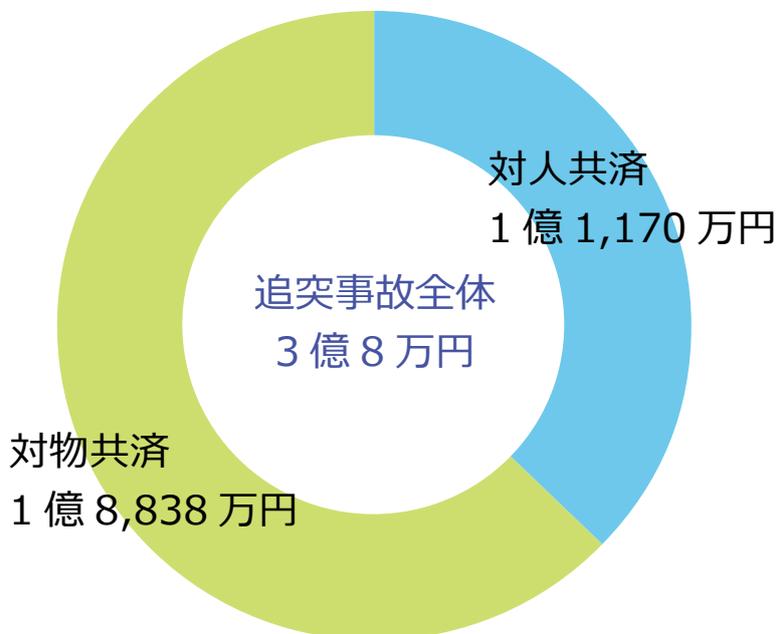
追突事故は、道路形状に関わらず、前方不注視、車間距離不保持およびハンドル等  
操作不適當が主な原因となっています。

#### [ 追突事故301件 ]



② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額

平成29年度の追突事故による支払共済金・備金は、対人共済1億1,170万円、対物共済1億8,838万円、総額で3億8万円となりました。



③ 追突事故防止のワンポイントアドバイス

追突事故の原因の一つとして、前をよく見ずに運転し、気がついてからブレーキを踏んだけど間に合わず追突するケースがあります。前車の動きを自分の目で確認することが必要です。

### 追突事故を防止するには

#### Advice

1. 信号の変わり目に注意

「前車は止まるかもしれない」と常に考え、いつでも停止することができるような速度と車間距離を確保した運転をしましょう。

2. 見込発進に注意

信号待ちから発進する時は、前車の動静をしっかりと確認しましょう。

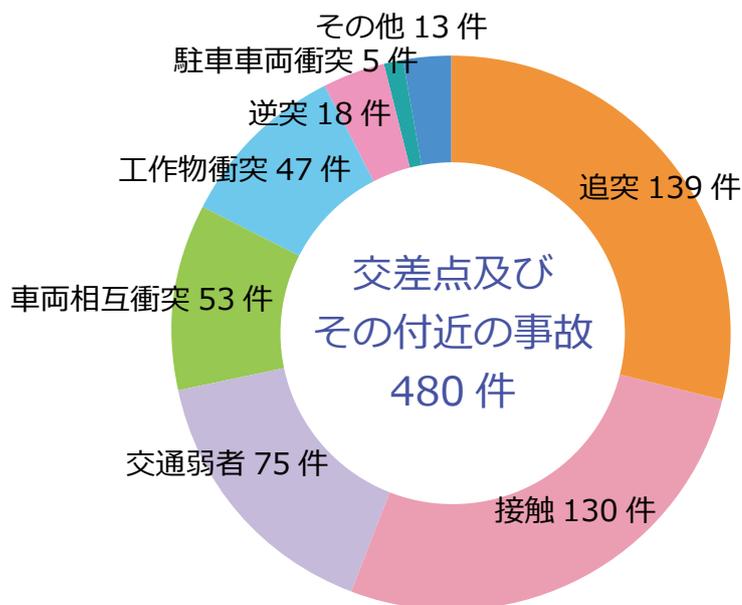
3. コメンタリー運転で事故防止

渋滞「注意」・車間距離「注意」・脇見「注意」など、安全確認を声に出し、前方への注意を怠らないようにしましょう。

## (2) 交差点事故の実態

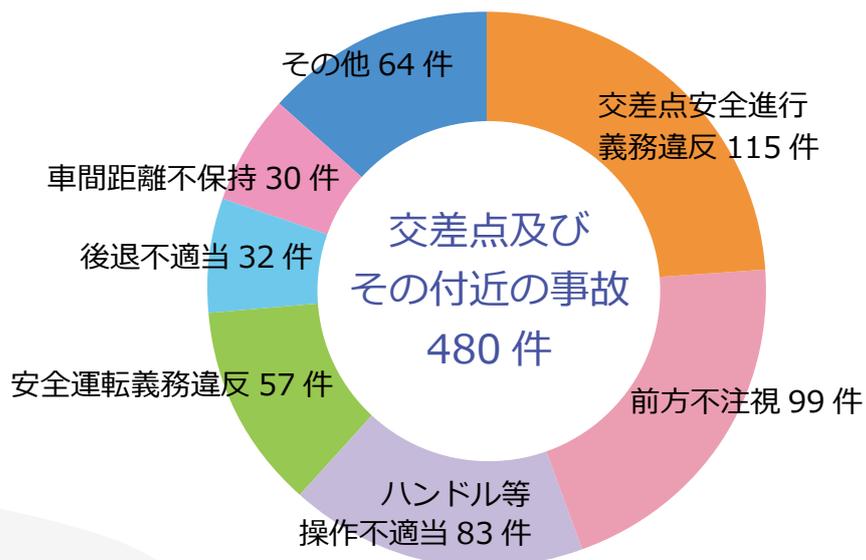
### ① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）

交差点事故の類型別では、追突事故が最も多く、次いで接触事故と続き、全体の56%を占めています。



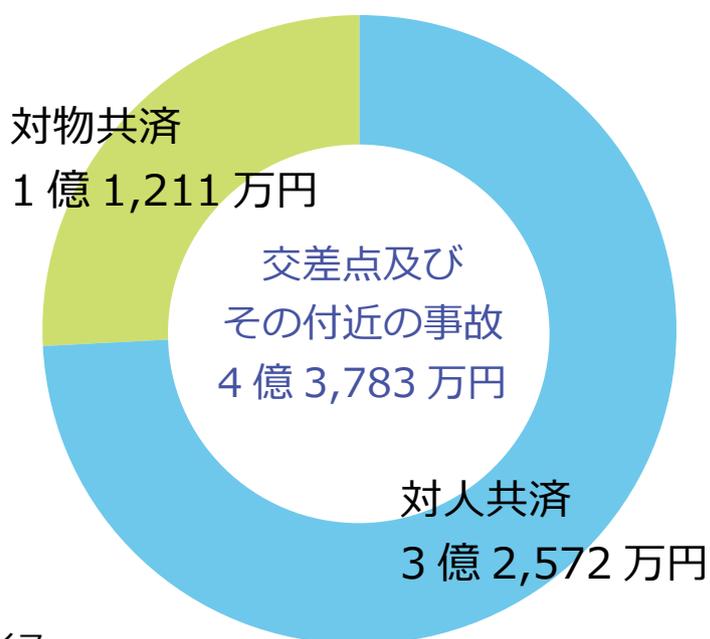
### ② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）

交差点事故の原因別では、交差点安全進行義務違反が主な原因となっており、次いで前方不注視、ハンドル等操作不適當となっています。



③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額

平成29年度の交差点及びその付近の事故による支払共済金・備金は、対人共済は3億2,572万円、対物共済は1億1,211万円、総額で4億3,783万円となりました。



④ 交差点事故防止のワンポイントアドバイス

交差点での事故原因は、交差点安全進行義務違反、前方不注視、ハンドル等操作不適當が主な原因となっています。車や人が混在する交差点では、特にコメンタリーによる確実な安全確認が必要です。

### 交差点事故を防止するには

#### Advice

1. 右折先の横断歩道上の歩行者・自転車に注意

対向車線の状況にとられ、右折先の横断歩道上の歩行者・自転車を見落としやすくなります。コメンタリー運転の実行に合わせ死角の部分など顔をずらして確認するなど、細心の注意を払いましょう。

2. コメンタリー運転の実行に合わせ右折時の二輪車に注意

渋滞の切れ目を右折するときは、道路端からくる二輪車に注意し、道路端まで見渡せる位置まで徐行して二輪車の有無をしっかりと確認しましょう。

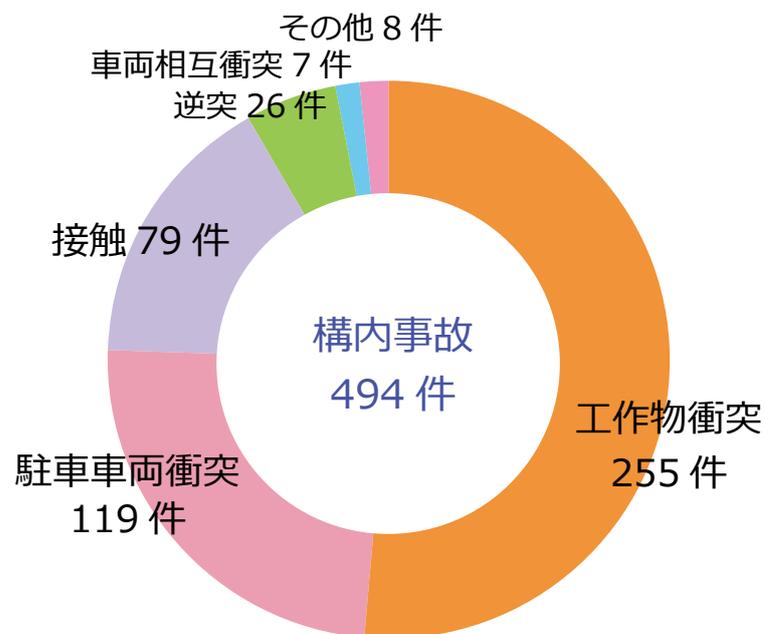
3. 左折時の内輪差に注意

道幅が狭い所を左折するときは、住宅の塀や電柱などに接触する危険があります。内輪差を考慮し、側方の安全をこまめに確認しましょう。

### (3) 構内事故の実態（対物共済）

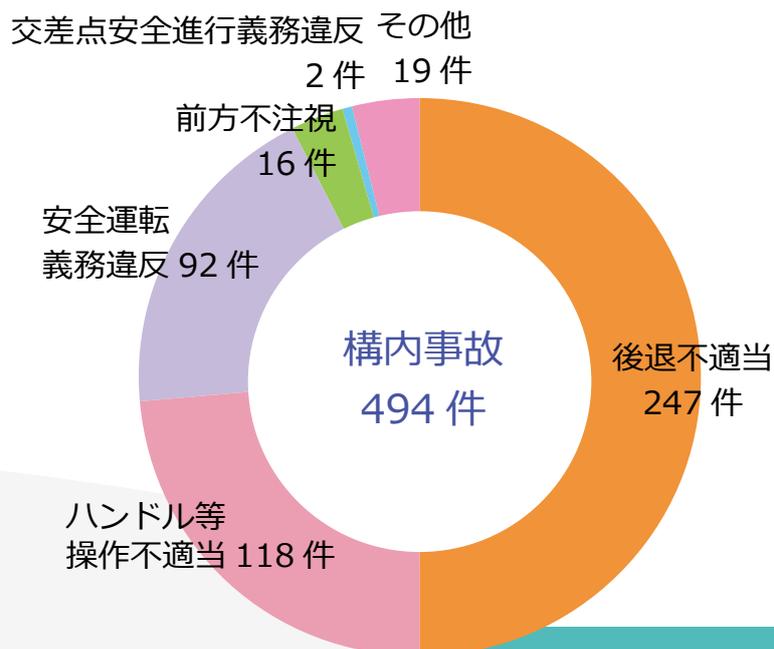
#### ① 構内事故の類型別事故状況

構内事故の類型別では、工作物への衝突が255件発生と最も多く、構内事故全体の51.6%を占めています。



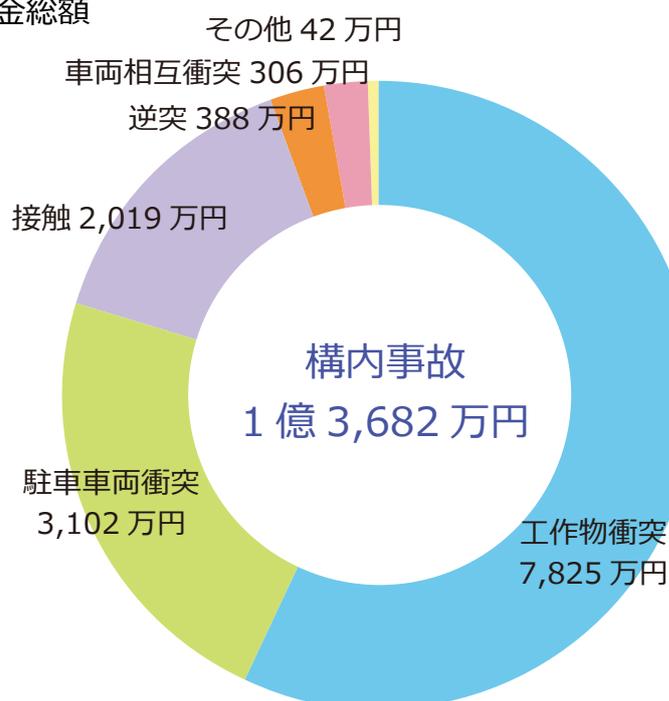
#### ② 構内事故の原因別事故状況

構内事故の原因別では、後方に対する安全確認が不十分な後退不適當が247件と全体の50%を占めています。



### ③ 構内事故（対物共済）の支払共済金・備金総額

平成29年度の構内事故による支払共済金・備金は、1億3,682万円で、そのうち工作物への衝突によるものが7,825万円と構内事故による支払共済金・備金の57.2%を占めています。



### ④ 構内事故防止のワンポイントアドバイス

構内での事故は、「いつもの構内だから」と警戒心が低下し、特に後方への安全確認が不十分なことが事故の大きな要因となっています。慣れた構内ほど「油断の心理」を警戒することが必要です。

## 構内事故を防止するには

### Advice

#### 1. 構内ルールを必ず守る

構内速度を守り、一時停止場所では必ず止まって安全を確認し、意識的に警戒心を高めるようにしましょう。

#### 2. 慣れた構内でも油断しない

慣れた構内でも油断せず、障害物は必ずあるという気持ちで、構内施設や他の車両の状況を確実に確認しましょう。

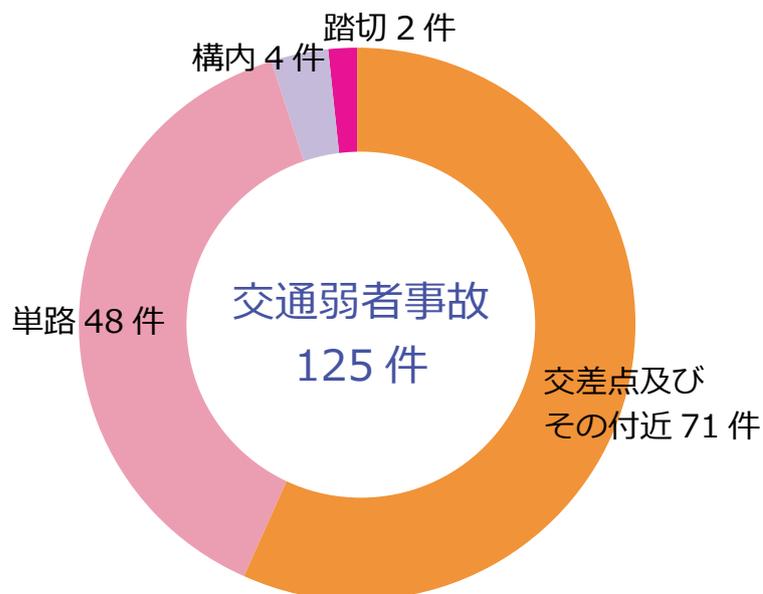
#### 3. 後退時もコメントリー運転の実行

必ず下車確認「障害物なし」、バック開始「後方注意 よーし」等と呼称し、「安全確認を声に出し」事故を起こさないという意識を強く持ちましょう。

#### (4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）

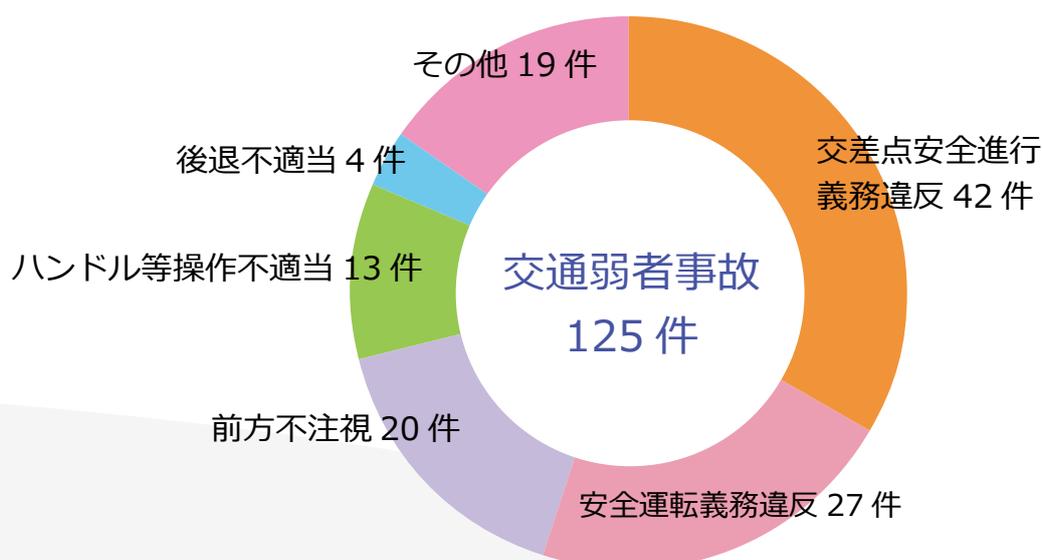
##### ① 交通弱者との道路形状別事故状況

交通弱者（歩行者31件・自転車44件・二輪車50件）を被害者とする事故125件のうち、56.8%が交差点及びその付近で発生しています。



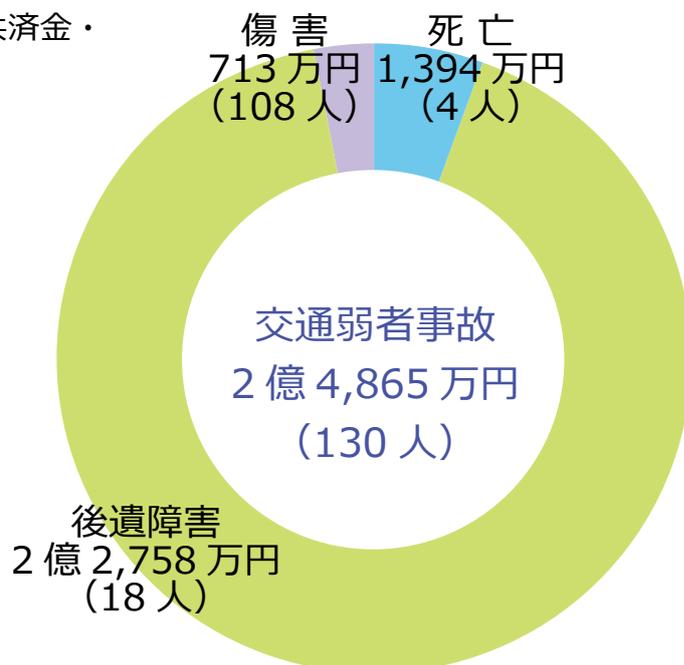
##### ② 交通弱者との原因別事故状況

交通弱者を被害者とする事故原因別では、交差点を通過する際、交通弱者への安全確認を怠ったことによる交差点安全進行義務違反が42件と最も多く、次いで安全運転義務違反、前方不注視によるものが多く占めています。



③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金・備金総額

平成29年度の交通弱者に対する支払共済金・  
備金は死亡事故に対して1,394万円、  
後遺障害に対して2億2,758万円、  
傷害に対して713万円  
総額2億4,865万円となっています。



④ 交通弱者年齢層と事故発生場所

交通弱者事故件数は125件で被害者数は130人となっています。

発生場所では交差点及びその付近が過半数を占めており、また、被害者年齢では50歳以上が41.8%と高い割合を占めています。

(人)

年 齢	場 所					合 計
	交差点及びその付近	単 路	構 内	踏 切		
6 歳以下	2					2
7~12 歳	2					2
13~15 歳	2	2				4
16~19 歳	6	6				12
20~29 歳	12	13				25
30~39 歳	9	5	2			16
40~49 歳	10	13	1	1		25
50~59 歳	15	6	1			22
60~64 歳	2	2				4
65 歳以上	14	3		1		18
合 計	74	50	4	2		130

### ⑤ 交通弱者被害者類型・態様別

被害者類型別では、二輪車が51件と最も多く発生し、全体に占める割合も39.2%となっています。

(人)

区分 被害者態様	交通弱者			合計
	歩行者	自転車	二輪車	
死亡	2	2	0	4
後遺障害	5	4	9	18
傷害	26	40	42	108
合計	33	46	51	130

### ⑥ 交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス

交通弱者との事故を起こさないためには、交通弱者の特性を理解し、「見る」、「見せる」、「予測する」ことが必要です。

## 交通弱者との事故を防止するには

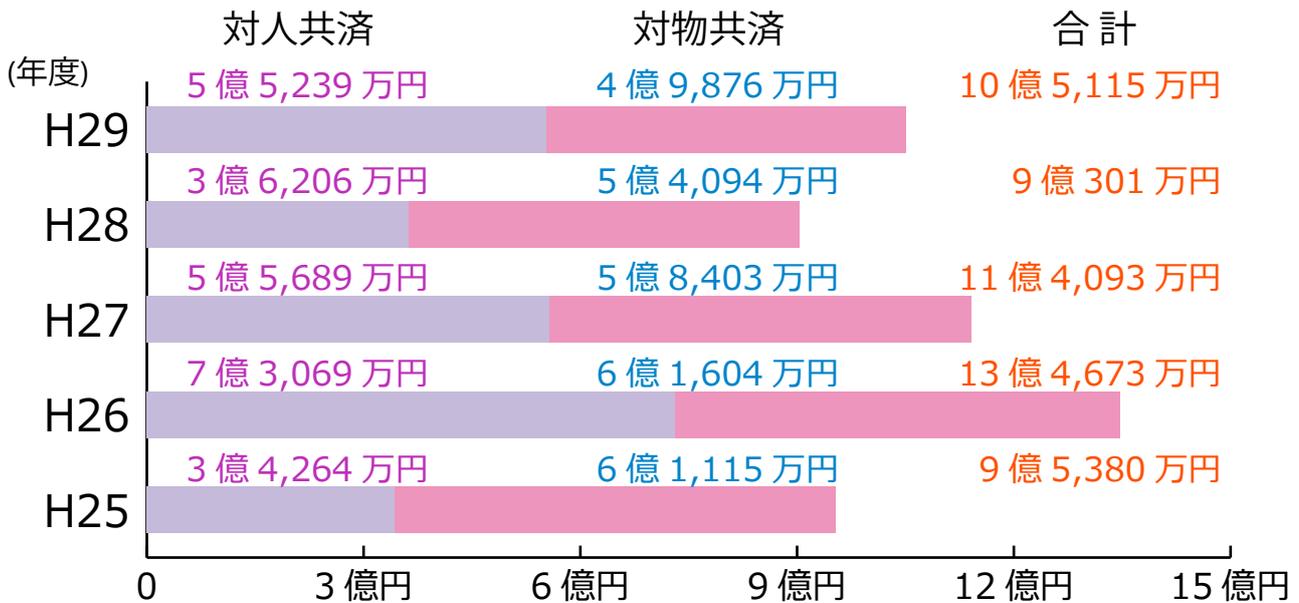
### Advice

1. 「見る」とは、早期に相手を発見することです。交差点の左折時は左側方の確認が重要ですが、ミラーにも死角があります。目視とミラーで数回に分けて確認して交通弱者を早期に発見しましょう。
2. 「見せる」とは、自車の動きを相手に見せて知ってもらう事です。夕暮れ時は早めにライトを点灯、夜間の上向きライトの活用等で交通弱者に自車の動きを知らせましょう。
3. 「予測する」とは、事故となる危険を予測し事故を防止することです。路地や駐車車両の陰からの子どもや自転車の飛出し、後方から接近する二輪車の動向等、常に危険を予測する「かもしれない運転」を励行しましょう。

## 4. 過去5年間における発生事故に係る支払共済金・備金総額

### (1) 共済種目別（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額

平成29年度の対人・対物共済の支払共済金・備金総額は10億5,115万円で、対人共済では平成28年度と比較して1億9,033万円の増額となりました。

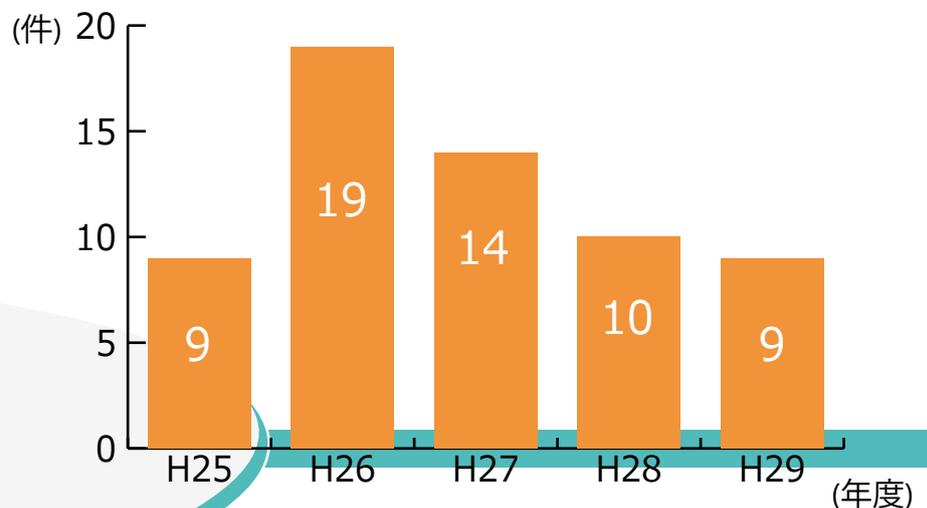


## 5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生概況

### (1) 対人共済

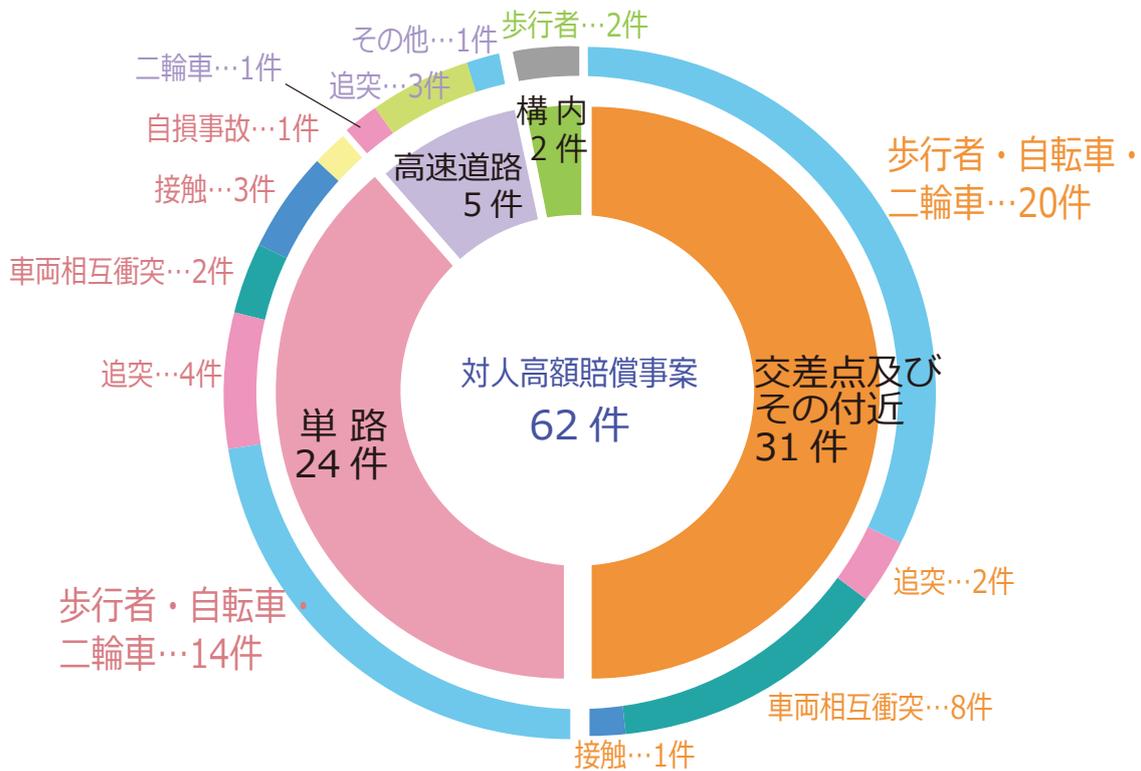
#### ① 高額賠償事案(1,000万円以上)61件の事故発生状況

平成29年度の高額賠償事案は9件の発生で、前年度より1件減少しました。



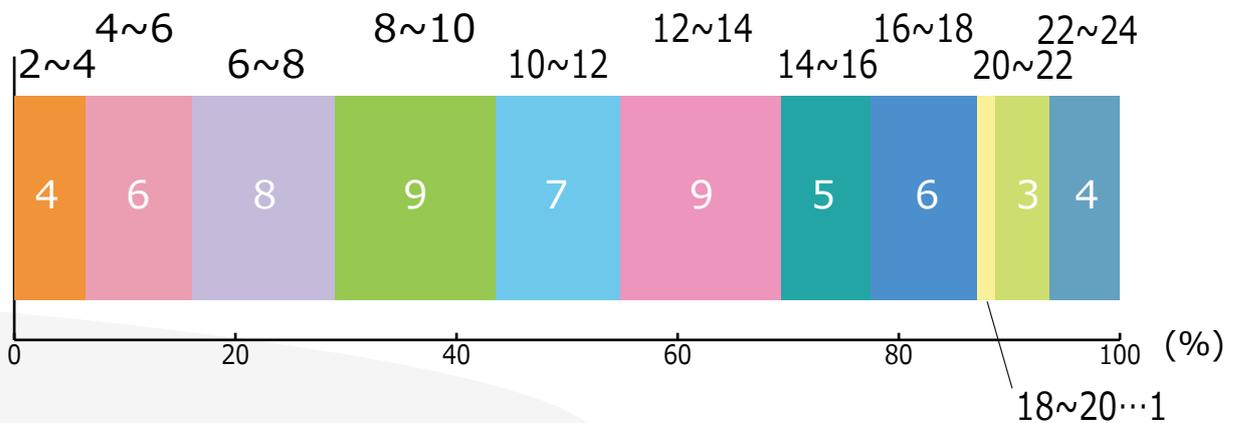
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、交差点及びその付近で31件、単路で24件発生しており、その多くは交通弱者との事故が占めています。



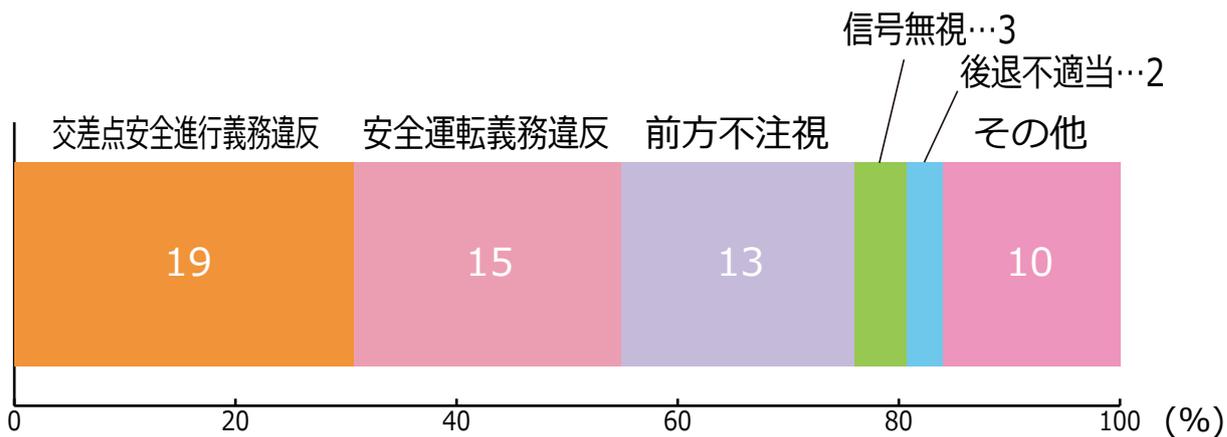
③ 発生時間帯別の事故発生状況

発生時間帯別では、通勤・通学時間帯と重なり交通量や歩行者が増える8時から10時、荷動き等が活発となる12時から14時の時間帯に多く発生しています。



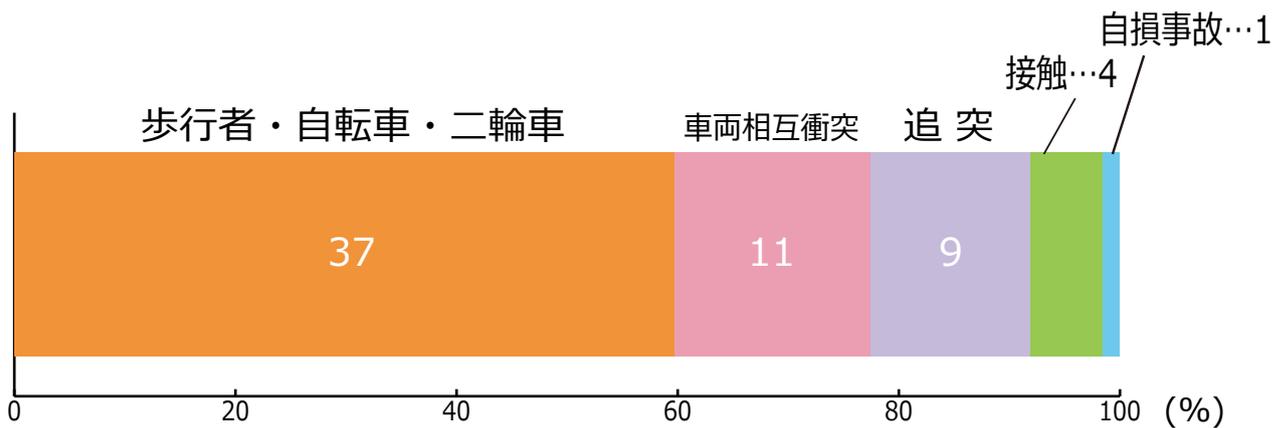
④ 原因別の事故発生状況

原因別では、交差点及びその付近での交差点安全進行義務違反による右・左折事故が19件と最も多くなっています。



⑤ 類型別の事故発生状況

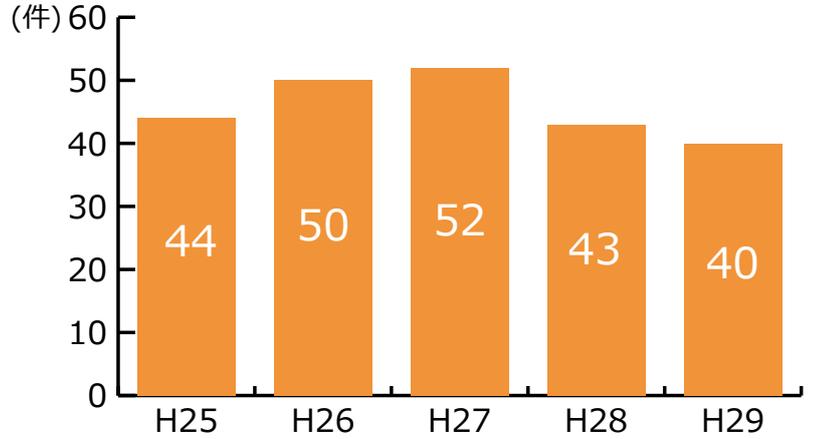
類型別では、交通弱者との事故が37件で約6割を占めています。



## (2) 対物共済

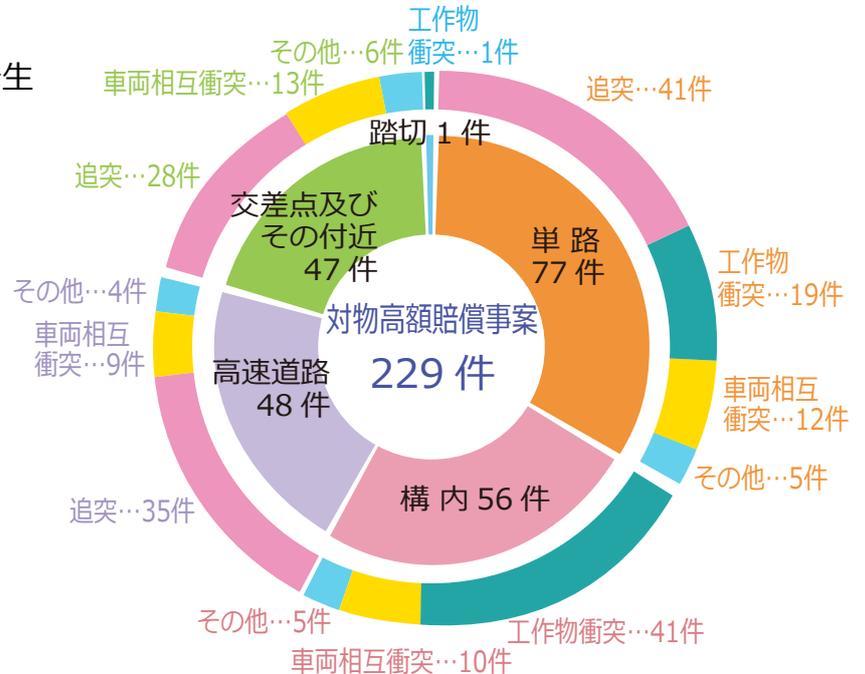
### ① 高額賠償事案(200万円以上)229件の事故発生状況

平成29年度の高額賠償事案は40件の発生で、過去5年間で最も少ない発生となっています。



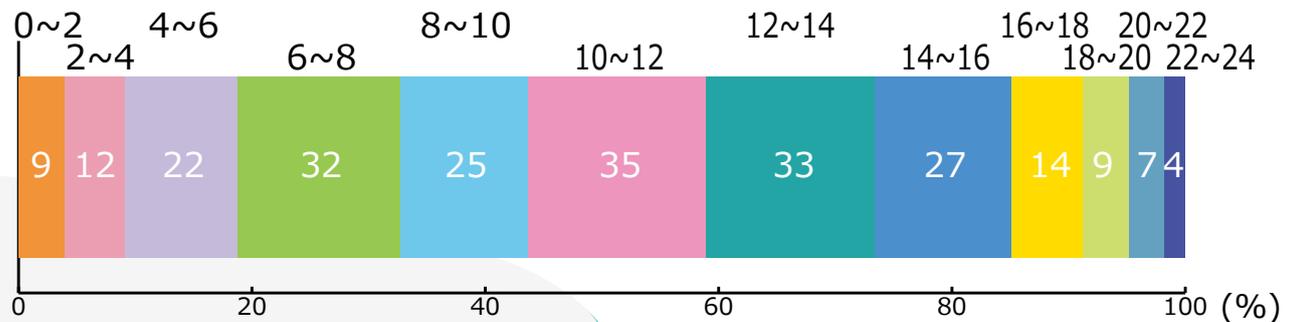
### ② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、単路で発生した事故が77件と最も多く、そのうち追突事故が41件と半数を占めています。また、構内における工作物との衝突が41件と高い割合を占めています。



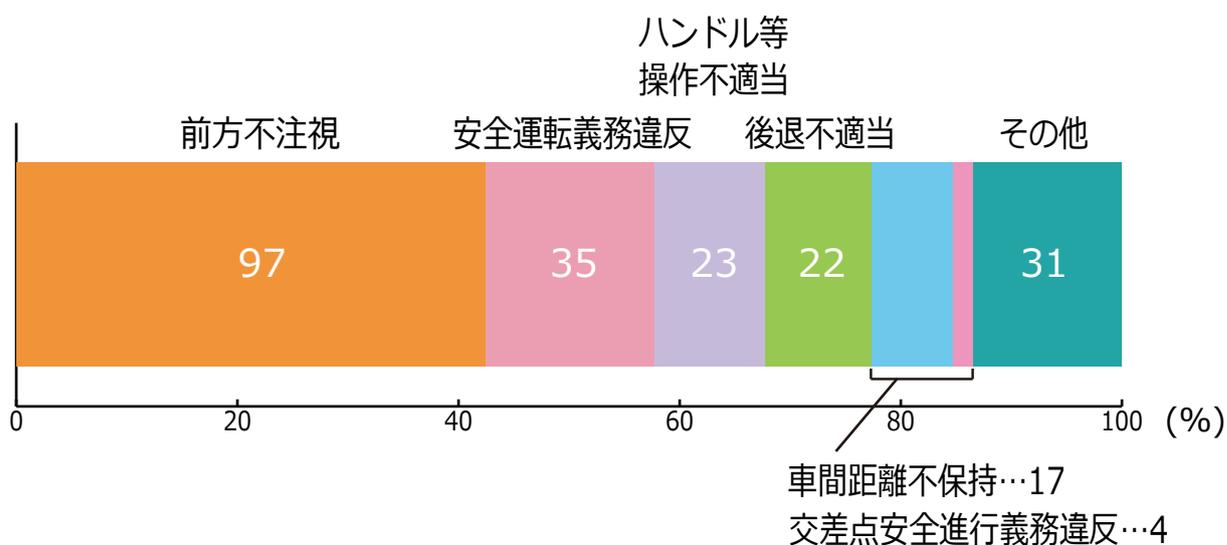
### ③ 発生時間帯別の事故発生状況

発生時間帯別では、6時から14時までの時間帯に多く発生しています。



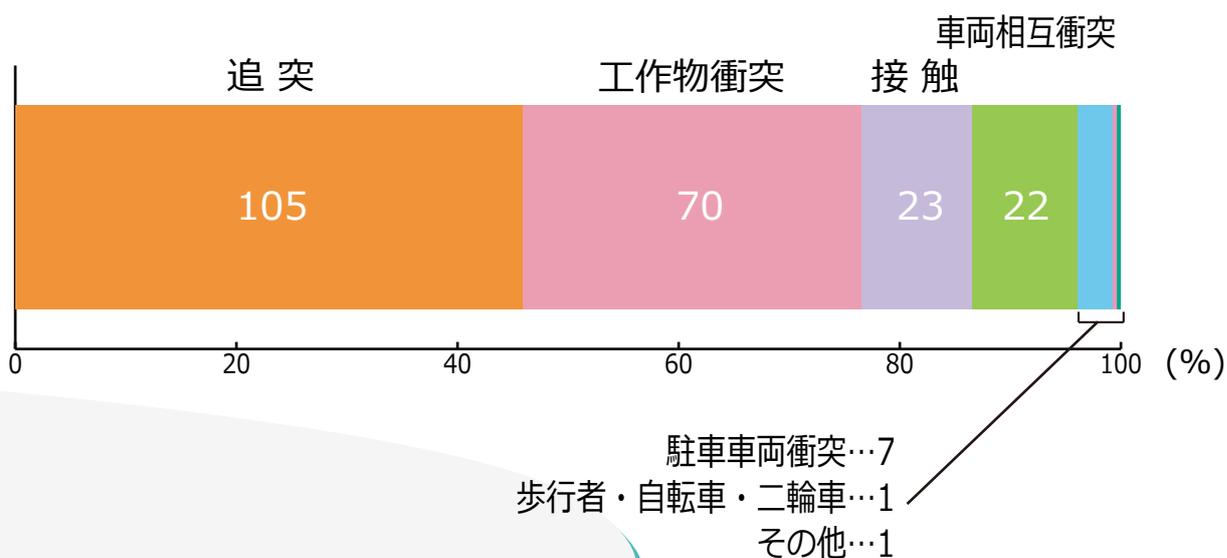
#### ④ 原因別の事故発生状況

原因別では、前方不注視による事故が97件と最も多く、次いで安全運転義務違反、ハンドル等操作不適當が多く発生しています。



#### ⑤ 類型別の事故発生状況

類型別では、追突事故が105件と最も多く、玉突き事故などによる複数との車両損壊事故が高額賠償事案となる傾向があります。



## 6. 過去5年間ににおける運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）

### （1）運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況

道路形状別の事故では、50歳代以降から交差点及びその付近での事故や単路での事故より構内での事故件数が増えてきます。また、構内事故の比率は50歳代33.8%、60歳代35.6%、65歳以上39.6%と年齢が高くなるにつれ割合比率も高くなる傾向にあります。

(件)

区分	年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
交差点及びその付近		17	239	423	846	659	242	192	1	2,619
単路		25	273	505	1,077	734	250	280	6	3,150
高速道路		4	77	157	320	183	62	47	1	851
構内		12	160	397	939	810	308	344	33	3,003
その他		0	2	8	6	7	3	5	0	31
合計		58	751	1,490	3,188	2,393	865	868	41	9,654

### （2）運転者年齢層別の類型別事故発生状況

類型別の事故では、29歳以下は追突、30歳～64歳になると車両相互の接触、65歳以上になると工作物への衝突が最も高くなっています。

(件)

事故類型	年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
車両相互	追突	17	199	292	600	397	125	128	2	1,760
	逆突	4	44	72	146	113	53	46	0	478
	接触	9	190	417	907	669	232	208	6	2,638
	その他衝突	6	53	139	257	168	71	62	6	762
車両単独	駐車車両衝突	6	53	114	215	224	96	95	2	805
	工作物衝突	11	168	339	781	614	218	279	4	2,414
	その他	1	7	23	49	34	5	9	20	148
歩行者・自転車・二輪車		4	37	93	233	173	65	41	1	647
踏切・その他		0	0	1	0	1	0	0	0	2
合計		58	751	1,490	3,188	2,393	865	868	41	9,654

### (3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況

時間帯別では、10時から12時の時間帯に事故が最も多く発生しており、年齢も20歳代以降幅広い層で同じ時間帯に事故が発生しています。

(件)

時間帯	年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
0~2		0	10	31	73	48	11	10	4	187
2~4		1	16	27	66	57	20	16	1	204
4~6		0	22	72	154	124	51	35	4	462
6~8		4	85	175	365	281	108	89	1	1,108
8~10		10	139	252	563	397	146	172	5	1,684
10~12		8	148	290	589	447	173	190	5	1,850
12~14		16	107	191	455	345	120	144	4	1,382
14~16		9	103	165	361	320	118	107	9	1,192
16~18		6	65	126	263	169	69	52	2	752
18~20		3	32	91	160	84	24	32	2	428
20~22		1	20	36	72	59	15	12	2	217
22~24		0	4	34	67	62	10	9	2	188
合計		58	751	1,490	3,188	2,393	865	868	41	9,654

### (4) 高齢運転者への事故防止ワンポイントアドバイス

一般的に、加齢による身体機能の低下に伴って、危険認知の遅れ、不適切なハンドル操作やブレーキ操作による誤操作などが起こりやすくなり、事故に繋がる恐れがあります。65歳以上を対象とした特別適性診断（適齢診断）を受診いただくと共に、その結果を活用し、安全運転に努めていただくようお願いします。

## 高齢運転者の事故防止アドバイス

### Advice

#### 1. コメンタリー運転で事故防止

加齢に伴い、危険認知が遅れがちになります。コメンタリー運転で目に見える危険や隠れている危険を積極的に見つけ出す意識を常に持ちましましょう。

#### 2. 安全運転は健康管理から

自らの健康状態を正しく認識し、疲労を蓄積しないよう心掛けるとともに、プロ意識をもって日々安全な運転が行えるよう健康管理に努めましょう。

#### 3. 過信せず安全確認をしっかりと

慣れた道でも過信せず、慎重な運転を心掛け、常に安全確認を忘れないようにしましょう。



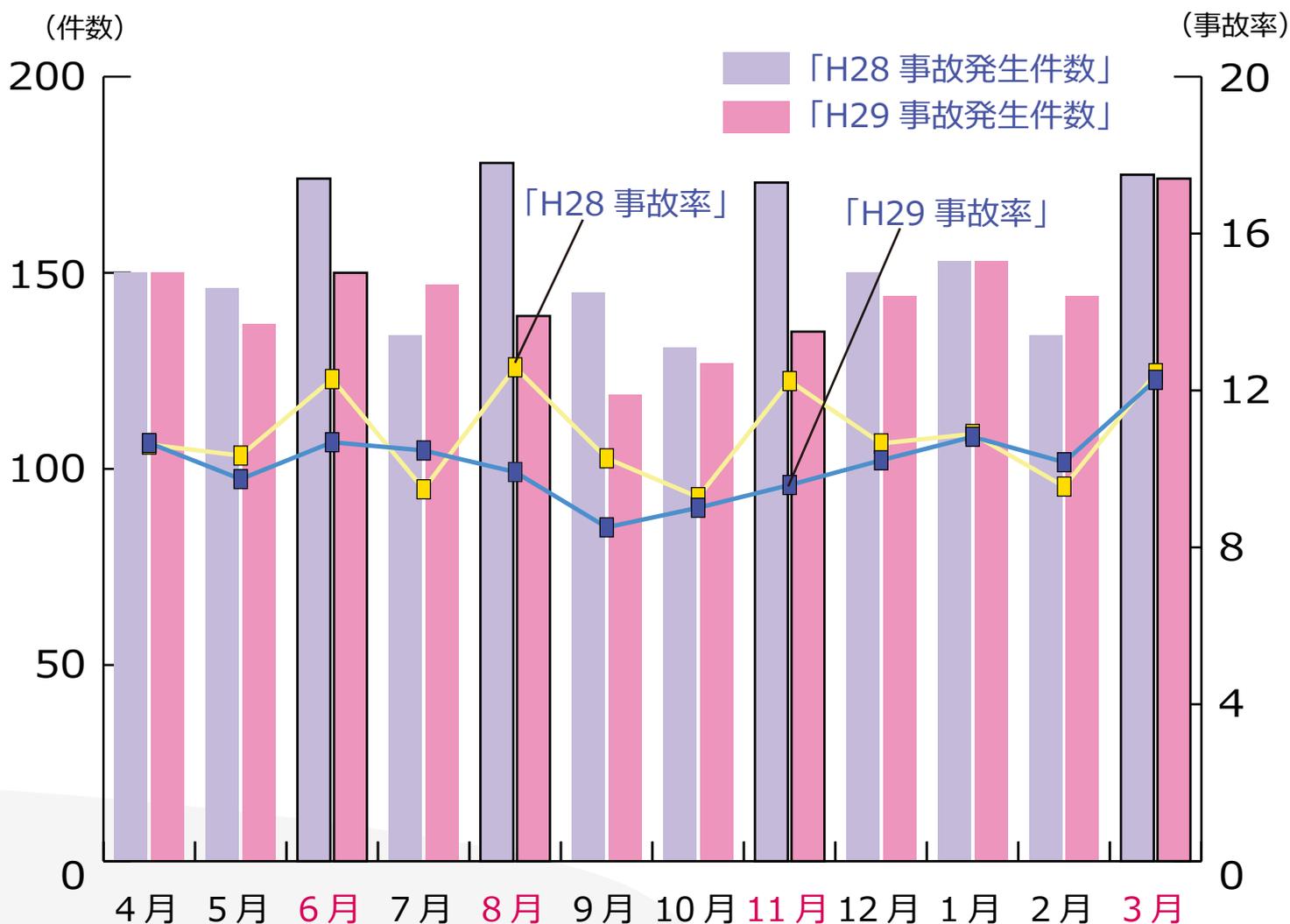
## 7. 平成29年度交通事故防止強化月の事故発生状況

平成28年度の事故多発月であった6月、8月、11月、3月の4か月間を平成29年度の交通事故防止強化月に設定し、運転者講習会の開催、事故防止機器の利用促進、安全情報の配信などに取り組み事故防止を推進しました。

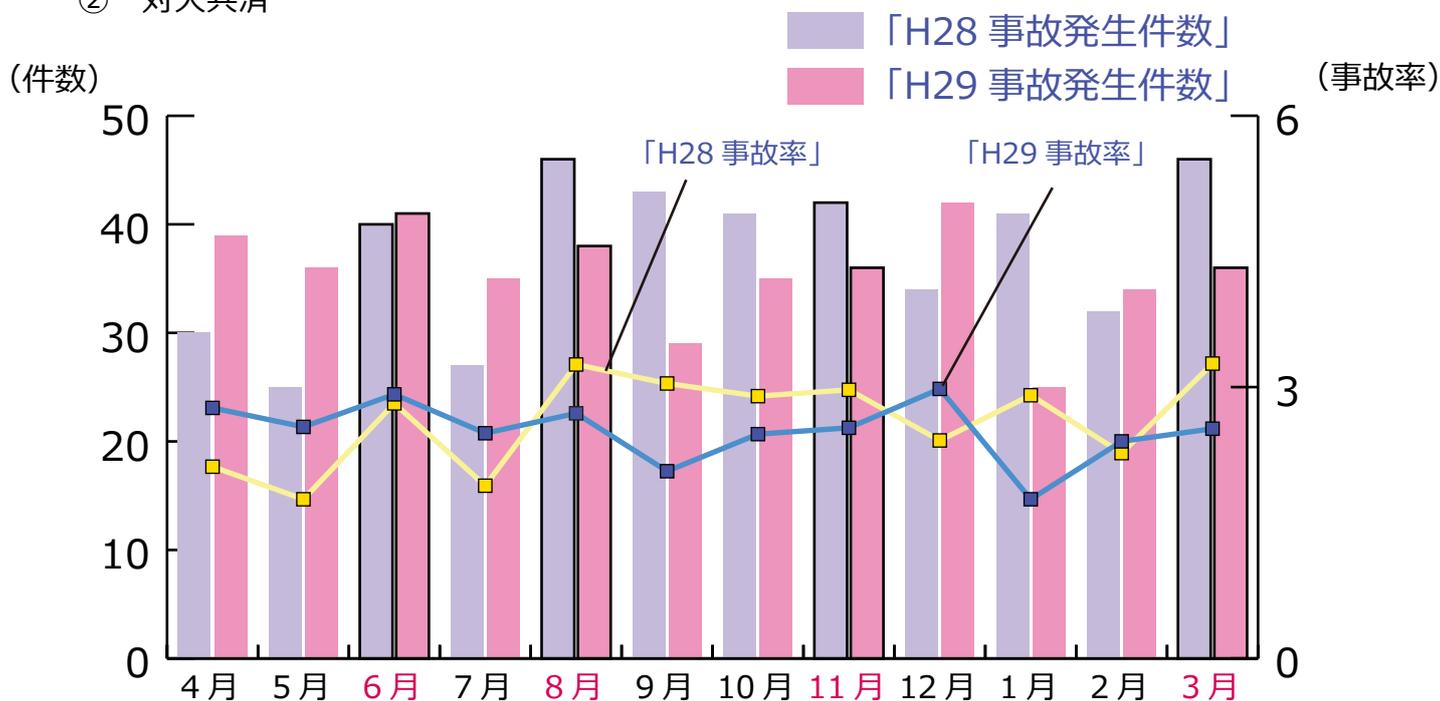
### (1) 月別事故発生件数・事故率

#### ① 全事故

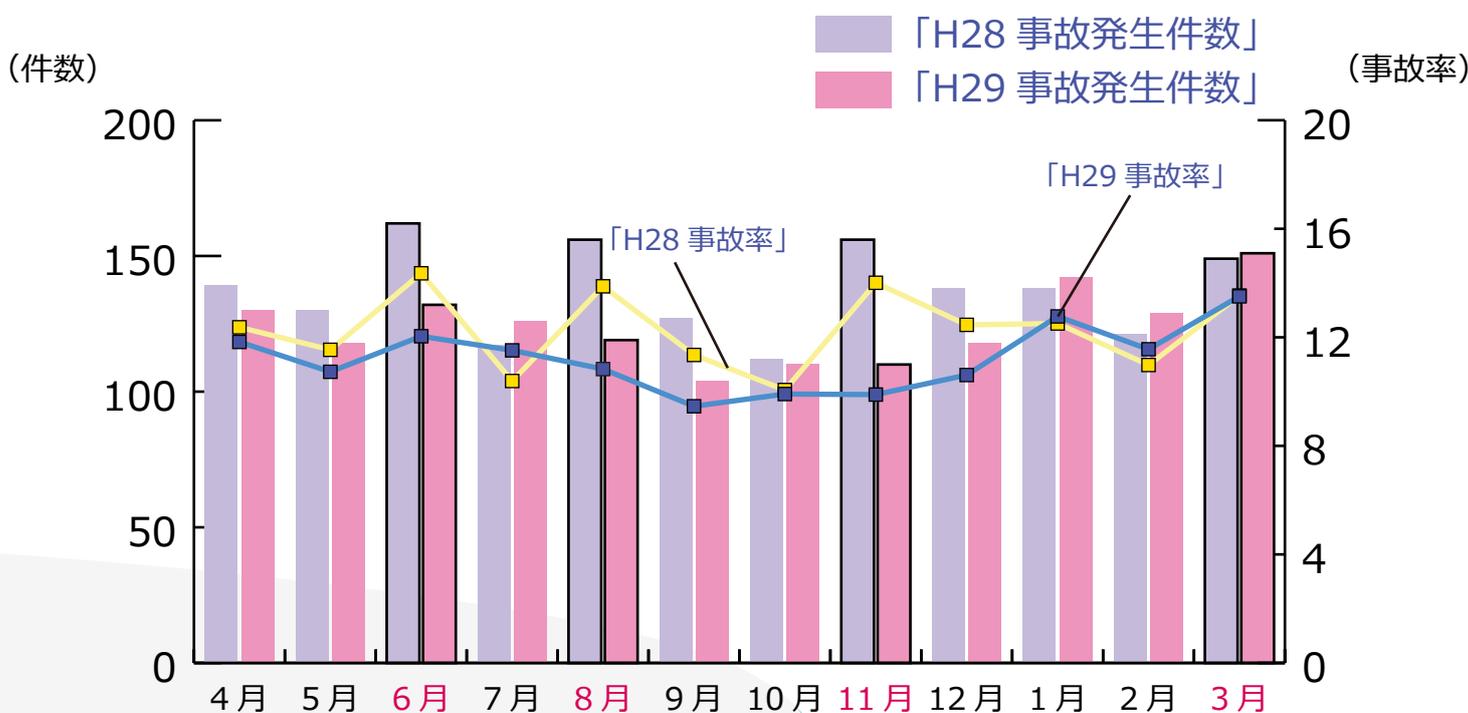
設定した強化月（6月、8月、11月、3月）は、全ての月で減少しました。



② 对人共済

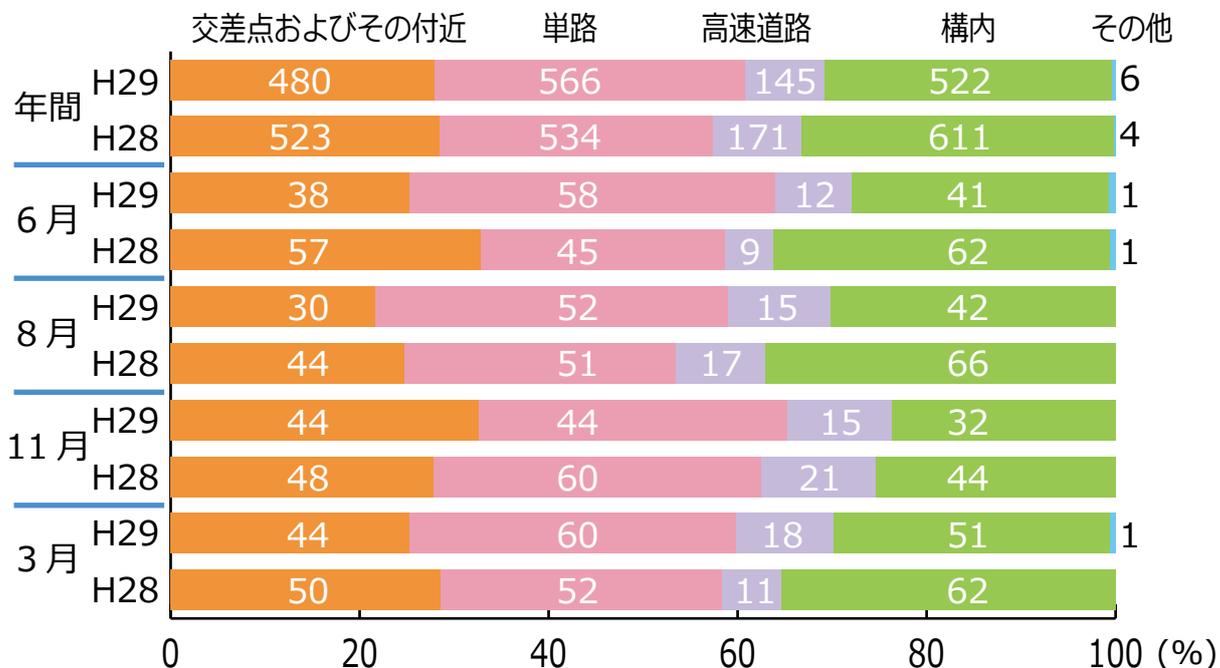


③ 対物共済



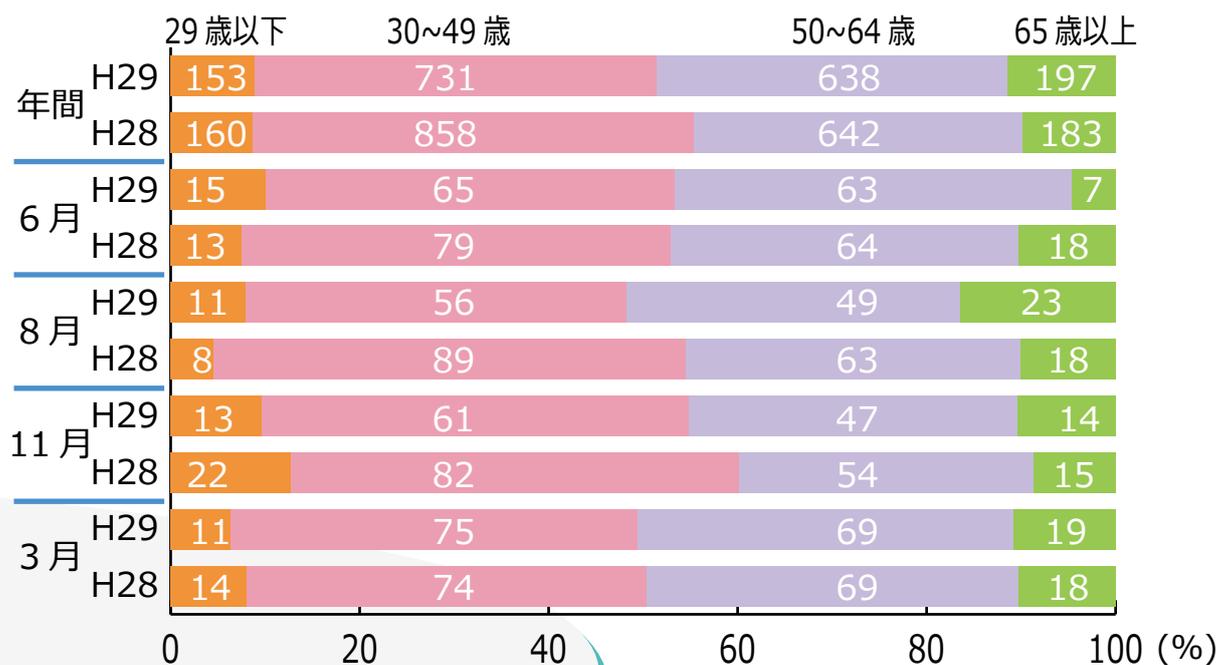
## (2) 道路形状別事故発生件数（全事故）

道路形状別では、交差点及びその付近と構内においては、強化月の期間全てにおいて減少しました。



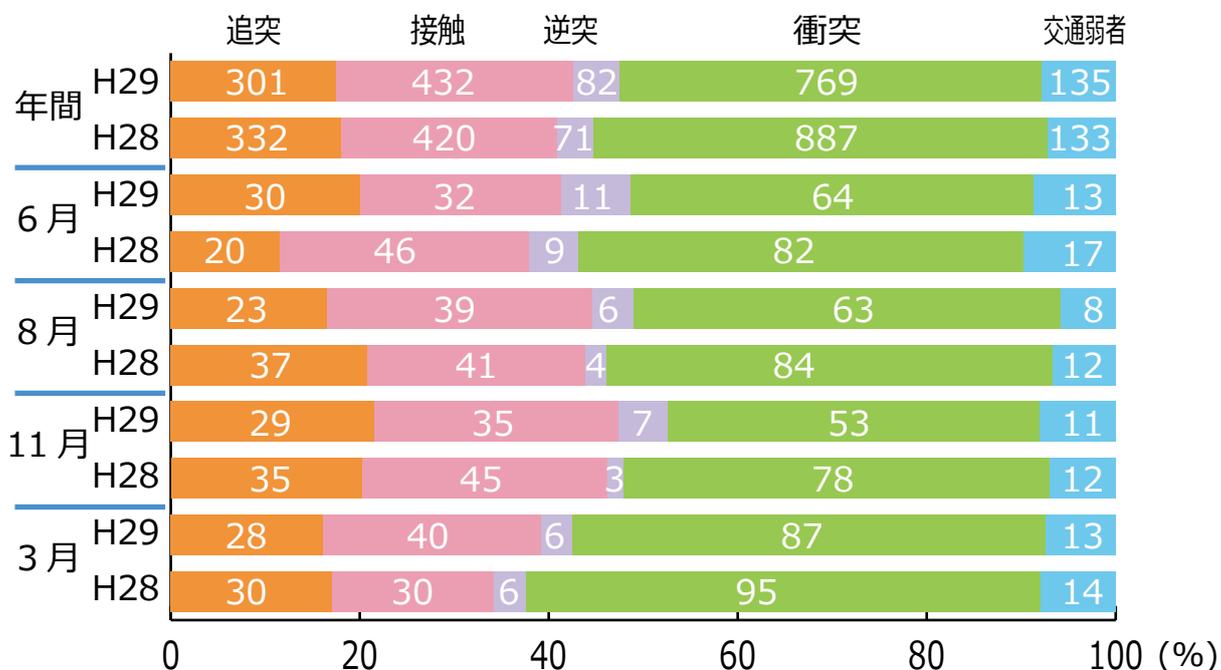
## (3) 運転者年齢層別事故発生件数（全事故）

運転者年齢層別では、年間を通して全事故の件数が減少している中、65歳以上においては、8月、3月の強化月にかかわらず年間を通して増加となりました。



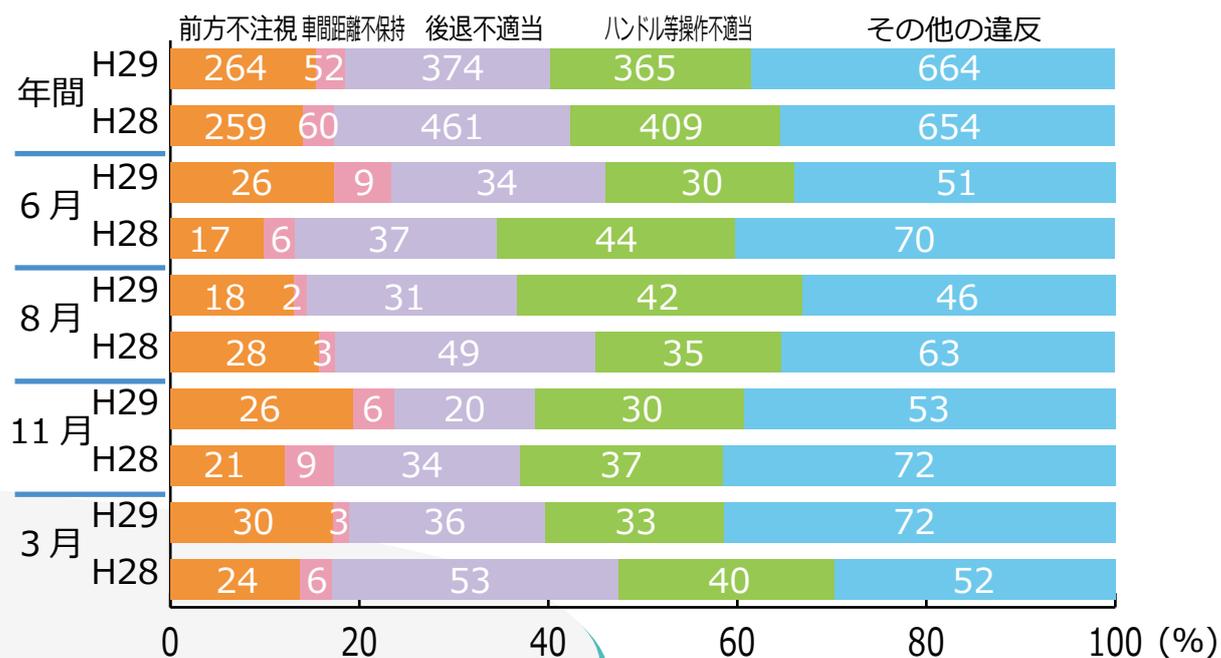
#### (4) 類型別事故発生件数（全事故）

類型別では、追突は6月以外減少、接触は3月以外減少、衝突および交通弱者は強化月すべてにおいて減少しました。逆突においては、3月以外全てにおいて増加しました。



#### (5) 原因別事故発生件数（全事故）

原因別では、後退不相当は、強化月および29年度全てにおいて減少しました。前方不注視は、8月以外の強化月および29年度を通して増加となりました。



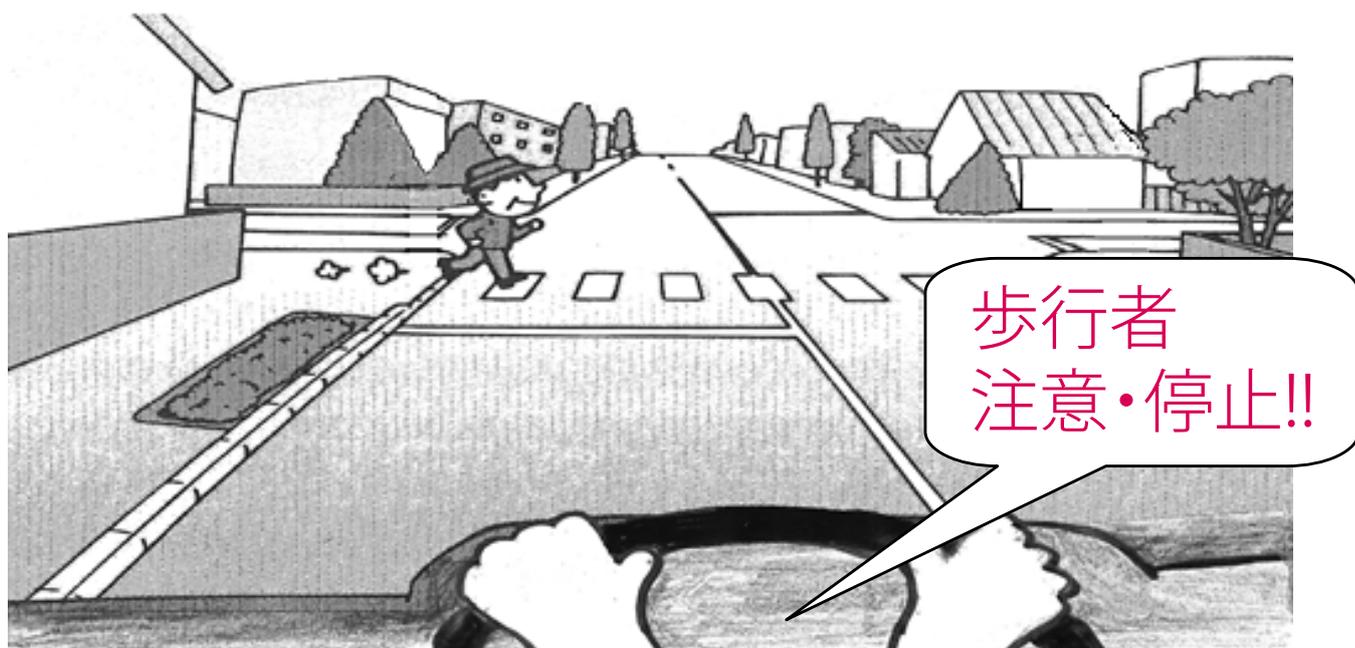
## 8. コメンタリー運転で事故防止

### (1) コメンタリー運転とは

イギリスの「ロンドン警視庁」が最初に始めたと言われる運転方法です。刻々と変わる道路状況や交通状況を、あたかも実況放送しているように コメントしながら、運転する方法です。

# コメンタリー運転

道路や交通状況を  
コメントしながら  
運転をする



コメンタリー運転は「声を出して安全確認を行うこと」が重要です。面倒がらず、恥ずかしながら、事故を起こさないという意識を強く持ち、まずは実行しましょう。

## (2) コメンタリー運転の方法

### 危険認知呼称



危険だと判断したものを呼称します。  
呼称(コメント)の方法に決まりはないですが自分にあった簡単な方が良いでしょう。



- ・道路を歩いている人は  
「歩行者」とコメント
- ・自転車に乗っている人は  
「自転車」とコメント
- ・自動二輪車、原動機付自転車は  
「二輪車」とコメント
- ・トラック・バス・乗用車は  
「車」とコメント

- コメントはあまり難しく考えずに自分にあった言い方をするようにしましょう。
- コメントの数は、慣れてきたら増やしてみましょう。

### 意思決定呼称



危険認知呼称後に、次にとるべき行動を呼称しましょう。



- ・このまま進行しても大丈夫と判断した場合は  
「よし」とコメント
- ・停止態勢に移るべきと判断した場合は  
「停止」とコメント

## (3) コメンタリー運転の効果とポイント

### コメンタリー運転の効果

- ①安全運転の意識レベルが向上します。
- ②安全確認の精度が向上します。
- ③危険の認知度が向上します。

### コメンタリー運転の3つのポイント

- ①遠くを広く見ましょう。
- ②見えないところへも注意を向けましょう。
- ③呼び方は自分にあった言い方で行いましょう。



## 9. 交協連傘下15組合の平成29年度事故発生状況

交協連（全国トラック交通共済協同組合連合会）は、全国15のトラック交通共済協同組合を会員とする団体です。

### (1) 事故発生状況（対人・対物事故）

事故発生件数においては、15組合平均より対人3件減、対物536件減ですが、事故率は対人・対物共に平均値を上回っています。

区分		神奈川	15組合合計	15組合平均	神奈川の割合
共済種目別		(件)	(件)	(件)	(%)
対人	発生件数(件)	426	6,437	429	6.6
	死者数(人)	5	119	7.9	4.2
	傷者数(人)	525	8,296	553	6.3
	100両当りの事故件数	2.51	—	2.06	0.45(平均との差)
対物	発生件数(件)	1,489	30,376	2,025	4.9
	100両当りの事故件数	11.19	—	10.78	0.41(平均との差)

### (2) 原因別事故発生状況（対人事故）

後退不適當、ハンドル等操作不適當、交差点安全進行違反の構成比15組合と比べ高くなっています。

区分	神奈川	神奈川の構成比	15組合合計	15組合の構成比
事故原因別	(件)	(%)	(件)	(%)
前方不注視	163	38.3	2,827	43.9
車間距離不保持	32	7.5	633	9.8
後退不適當	30	7.0	320	5.0
ハンドル等操作不適當	60	14.1	701	10.9
徐行違反			27	0.4
左折違反			229	3.6
右折違反			198	3.1
一時停止違反			28	0.4
最高速度違反			2	0.03
優先通行違反			17	0.3
追い越し違反			73	1.1
横断(転回)違反			18	0.3
信号無視	4	0.9	140	2.2
酒酔い・酒気帯び			5	0.1
安全運転義務違反(安全速度)			15	0.2
安全運転義務違反(その他)	62	14.6	701	10.9
交差点安全進行義務違反	53	12.4	384	6.0
不明・その他の違反	22	5.2	119	1.8
合計	426	100	6,437	100

(3) 類型別事故発生状況（対人事故）

交通弱者事故が15組合の構成比と比べ高くなっています。

区分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
類型別		(件)	(%)	(件)	(%)
車両	追突（走行中）	34	8.0	619	9.6
	追突（停止中）	173	40.6	2,531	39.3
	正面衝突	2	0.5	102	1.6
	側面衝突	8	1.9	449	7.0
	接触	85	20.0	1,337	20.8
	その他	40	9.4	343	5.3
	小計	342	80.3	5,381	83.6
	（うち 自動二輪・原付）	50	11.7	448	7.0
歩行者		31	7.3	341	5.3
自転車		44	10.3	583	9.1
単独（その他）		9	2.1	132	2.0
合計		426	100	6,437	100

(4) 運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）

運転者の年齢層は、15組合全体を通して50歳以上が46%と高い割合を占めています。

区分	神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
年齢	(件)	(%)	(件)	(%)
20 歳未満	5	1.2	65	1.0
20~24 歳	20	4.7	250	3.9
25~29 歳	19	4.5	323	5.0
30~34 歳	23	5.4	419	6.5
35~39 歳	26	6.1	519	8.1
40~44 歳	69	16.2	838	13.0
45~49 歳	72	16.9	1,060	16.5
50 歳以上	192	45.1	2,963	46.0
合計	426	100	6,437	100

（引用：平成 29 年度 交通共済統計年報データ）



# 神奈川県自動車交通共済協同組合

〒222-8582

横浜市港北区新横浜2-13-4

<http://shinkokyo.or.jp/>

<http://shinkokyo.or.jp/mobile/>

(H30.10)